

問 意向把握は 住民投票も一つの手法

答 原発問題に住民投票は馴染まない



光風会
恵りいつ 議員

問 原発に対する思いは様々。再稼働是非についての住民の意向把握は今から始めるべき。情報を十分に提供した上での住民投票もその一つでは。

答 意向把握は時期も手法も未定。原子力問題は複雑な要素がある。住民投票で単純に是非の結論を出せばよいというものではない。

問 村長が100%安全と確信した時に再稼働。村民の安全を脅かす事態が起きたときの村長として



自治基本条例を上手に使おう！
住民投票について書かれている自治基本条例のパamフレット

答 再稼働の是非判断はしていないが、村民の安心・安全を第一に考えることは当然。村政の全ては村民のためにあることを前提に、自らの責任を果たす。

問 3万8千人に対して責任をとる村長の覚悟について再度伺う。

原子力問題は住民も単純に○×を付けるはずがない。村長一人で再稼働是非の判断を背負うのではなく、住民と共に決定してはどうか。

答 最善を尽くし、住民の安全を守り抜くという責任を全うしたい。住民投票実施の考えはない。

問 スマートICの大型通行の取組は

答 地区協議会の年度内開催を目指す



新政とうかい
寺門 定範 議員

問 東海スマートインターチェンジの大型車両通行を見越した調査・検討を進めているが、地区協議会の開催に向けた現在の状況は。

答 地区協議会の開催に向け必要な基礎資料を準備している。準備が整い次第、事務レベルの話し合いから進め、関係機関と調整の上、年度内に地区協議会を開催していきたい。

問 保育の受け皿確保策が必要

答 既存施設を活用した確保策を検討

問 保育所への入所を

希望するニーズは高く、入所保留児童が増加している。スピード感のある思い切った発想による対応が必要。

答 できる限り多くの児童を受け入れられるよう、職員採用等により対応する。今後、ニーズ調査を実施し、その調査結果を踏まえ、保育の受け皿の必要量を協議していく。一方、早急な対応が必要であることも認識しているため、緊急対策として既存施設を活用した受け皿確保策を検討し、調整を進めている。



中型車以上不可の表示のある東海スマートインターチェンジ入口